

**微生物病研究所**

I	研究水準	.....	研究 17-2
II	質の向上度	.....	研究 17-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、当該研究所の設立目的である微生物病の学理を明らかにし、感染症及び免疫学研究の中心拠点として機能させる研究を研究所のメンバー及び国内ワクチン生産の 30%を占める財団法人阪大微生物病研究会が一丸となって実施している。また、21 世紀 COE プログラム「感染症学・免疫学融合プログラム」、世界トップレベル国際研究拠点「免疫学フロンティア研究センター」の立ち上げをはじめ、「感染症国際研究センター」、「大阪大学感染症国際研究拠点」、「日本・タイ感染症共同研究センター」を設立し世界に冠たる微生物病研究所を擁した功績は大きいものである。研究資金の獲得状況については科学研究費補助金の高い獲得率をはじめ、外部資金を多数取得しており極めて活発な状況にあることは、優れた成果である。

以上の点について、微生物病研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、微生物病研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

### 2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、インパクト・ファクター（IF）の非常に高い国際誌に当該研究所発の多くの研究業績が掲載され、非常に高い研究能力を有した多数の

微生物研究者を擁した研究所である。こうしたメンバーが発表した「研究成果」は、社会、経済、文化面からみて関連学会や地域社会のみならず、国際社会や産業分野へ与える影響も大きいものであることは、優れた成果である。

以上の点について、微生物病研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、微生物病研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が 1 件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が 7 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。